

各 位

2018年3月5日  
株式会社リットーミュージック

『キーボード・マガジン』通巻400号は、  
第一線で活躍するキーボーディストたちが多数登場！  
400号記念ジングルを付録CDに収録



インプレスグループで音楽関連の出版事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：古森優）は、通巻400号となる鍵盤楽器専門誌『キーボード・マガジン 2018年4月号 SPRING』を、2018年3月10日に発売します。

鍵盤楽器専門誌『キーボード・マガジン』が通巻400号を迎えます。それを記念して、「キーボードのこれから」と題した特集を掲載。ABEDON（ユニコーン）、H ZETT M、スキマスイッチ、ヨコタ シンノスケ（キュウソネコカミ）、小川貴之（sumika）、沖祐市（東京スカパラダイスオーケストラ）、堀江博久、難波弘之といった第一線で活躍するミュージシャンたちに、彼らが実際に体感しているキーボード・シーンの変化についてさまざまな角度から聞いています。また、本誌がともに歩んだキーボードと音楽の歴史も総括しました。さらに、キーボーディストたちが本誌400号記念のために制作したジングル

を付録 CD に収録。浅倉大介 & 貴水博之 (access) のロング・インタビューや最新機材レビューなども掲載、充実の内容となっています。

**Keyboards from now on**

第一弾としてお届けするのは、ABEDONとH ZETT Mの特別対談だ。キーボードマガジンの誌面を賑わせ続けてくれる2人だが、意外な組み合わせと思う方もいるかもしれない。しかし、両者とも圧倒的な存在感を持つ「バンド・キーボーディスト」である。ジャンルやプレイ・スタイル、世代は違っても、音楽への姿勢には必ずや共通点があるはずだ。お互いの印象から、パフォーマンスや楽曲へのごこだわり、キーボーディストとキーボードマガジンの未来についてまで、たっぷりとお話してもらった。

※ 監修 浅野俊  
※ 取材 山本真緒  
※ 撮影 Studio 0100

Special Crosstalk 1

**ABEDON**  
その年代によってキーになる人がいると思う  
音楽を聴いたときに、そういうプレイヤーの1人かになっていく気がしました



**H ZETT M**  
最初に聴いたとき“これは悪い人たち！”って  
自分の思っている音楽とは全然違って、衝撃がすごかったんです

0 1 0

**Keyboards from now on**

常田真太郎  
Shintaro Tokita

僕にとって、キーボードはツールというだけではない  
原点、出発点になる大事なものです

**スキマスイッチ**

Special Crosstalk 2

次に登場していただくのは、ボーカリストとキーボーディストという物とは一線を画す形態で音楽を紡ぎ出すユニット、スキマスイッチだ。幼いころにクラシック・ピアノを習っていた大橋卓弥と、シンセサイザーに触れて初めて自身の音楽が始まったという常田真太郎。2人はともに作詞作曲を行い、密なコミュニケーションによって楽曲を完成させる。なぜこのようにスタイルで音楽を作るようになったのだろうか？最新作「新感覚アルバムリズム」の話を交えながら、ユニットを結成した経緯や、ソングライターが2人いることのメリット、スキマスイッチにおけるキーボード・サウンドの重要性について話を聞いた。

※ 監修 浅野俊  
※ 取材 丹手陽子

**大橋卓弥**  
Takuya Ohashi

それまでになかった音が加わると急に新しいものが生まれる  
それがキーボードの特徴だと思っています

2人がベストだということを  
卓弥を口説くときに言いました

—アビュ15周年ということで、改めて結成当時のことについて聞かせてください。スキマスイッチは、なぜそもそもボーカルとキーボードというユニットでやるようになったんですか？

常田 一番大きな理由は、僕が自分の歌が書いて、歌が歌えないということが苦しみを感じていたんです。悩みに悩んでバンドを結成も考えましたが、2人とも音楽にバンドで失敗しているということも、メンバー全員が長い間同じベクトルを向いて活動し続けているのになかなか伸びない。逆に、僕によってその程度バンドを結成することに悩みを感じたんです。常田によってスキマスイッチに誘われてもらえば、僕がキーボードが出来るんじゃないですか。そういうふうに、時には僕にバンド、時にはオーケストラという形態を全部やるには、2人がベストだということも、卓弥を口説くときに言いました。

—大橋さんが最初に常田さんのステージを見たとき「まだ口説くから新で、常田さんは楽器を弾くのが力強い」と思っていたんですか？

常田 当時の印象はやっぱりそうでしたか？

大橋 絶対に覚えてますよ。とにかく常田がたどたどしくて(笑)。僕はクラシック・ピアノをやっていたので、中学時代に常田のバンドを観た時、常田が常田のバンドに誘われたんです。でもクラシック・ピアノやポップスは違う。クラシックはもっと高難易度のたつて勝手に高貴感があったんですよ。だから誘われても入らず。そうこうしているうちに常田はバンドを始めた手たちが楽器を弾くというイメージで常田さんです。なので常田が誘ったのがやっぱり上がって(笑)。クラシックはやっぱりすごいんだって言うことだから、そのシンドラのステージを観たわけです。シンドラがある観客席があるようになってからライブをやっていたらやっぱり常田さんでいいんだって。そのときはまだ僕から誘われていないのに常田さん入った。だから僕はないのに常田さん入った。しかも常田さん誘って常田さん入ったというイメージは僕に伝わって、僕も常田さんと同じように常田さん入った。僕も常田さんと同じように常田さん入った。僕も常田さんと同じように常田さん入った。

（録音場所）アルファビル、スタジオ「A」UMCA 10054（浅野俊撮影）UMCA 10054（浅野俊撮影）3 / 148巻

0 2 0





## ■書誌情報

季刊誌『キーボード・マガジン 2018年4月号 SUMMER』

定価：1,500円（本体1,389円+税）

発売：2018年3月10日

雑誌情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/magazine/detail/3117122004/>

## CONTENTS

### 特集 キーボードのこれから

ABEDON×H ZETT M

スキマスイッチ

ヨコタ シンノスケ（キュウソネコカミ）×小川貴之（sumika）

沖祐市（東京スカパラダイスオーケストラ）×堀江博久

難波弘之

キーボードと音楽の半世紀

シンセサイザーとプロダクト・デザイン

### キーボーディストが制作する 400号記念ジングル

H ZETT M／kiyo（Janne Da Arc）／堀江博久／土橋安騎夫（レベッカ）／増田隆宣／  
Schroeder-Headz／AZUMA HITOMI／平畑徹也／高橋利光（クレイジーケンバンド）

### インタビュー

浅倉大介 & 貴水博之（access）

ゆかるん（SILENT SIREN）

### 機材レビュー

YAMAHA MONTAGE

KAWAI MP11SE

CASIO CT-X5000

Bose S1 Pro Multi-Position PA system

KORG Prologue

【株式会社リットーミュージック】 <http://www.rittor-music.co.jp/>

□所在地：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング □設立：1978年4月10日 □資本金：1億円 □決算期：3月31日 □従業員数：81名（2016年3月31日現在） □代表取締役：古森優 □事業内容：音楽関連出版事業

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>



株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。2017年4月1日にグループ創設25周年を迎えました。

以上

---

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報宣伝担当  
Tel: 03-6837-4728/ E-mail: [pr@rittor-music.co.jp](mailto:pr@rittor-music.co.jp)